

旭赤医誌 27 ; 13 ~ 16, 2013

A病院血液腫瘍内科病棟における チェックリストを用いた看護師教育への取り組み

白 鳥 加奈子 土 居 ひとみ 鎌 田 真 美
及 川 和歌子 阿 部 昌 江

Key Words : 看護師教育, 造血細胞移植を含む血液造血器腫瘍疾患看護にかかわる看護師のクリニカルラダー

は じ め に

B病棟は血液腫瘍内科病棟であり、造血幹細胞移植（以下移植）看護経験年数5年以下の看護師が約70%を占めており移植看護の経験年数は低い状況にある。平成23年度に行った先行研究でB病棟の移植看護経験年数による知識の差が明らかになっており、経験年数が低い看護師に対し移植看護質向上に向けた働きかけが課題となっていた。

今回、日本造血細胞移植学会から提示されている「造血細胞移植を含む血液、造血器腫瘍疾患看護にかかわる看護師のクリニカルラダー（4段階19項目から構成）」をもとに独自で評価基準を設定した「移植看護チェックリスト」（以下チェックリスト）を作成した。このチェックリストを活用し勉強会などの看護師教育を行った結果、具体的なスタッフ個々の学習課題、目標の明確化につながり学習の動機付けとなったのでここに報告する。

I 研 究 目 的

チェックリストを用いた看護師教育の取り組みの評価と、今後の課題を明確にする。

II 研 究 方 法

対象：B病棟の新人看護師を除いた看護師21名。

調査方法：

1. パトリシア・ベナー技能習得レベルを参考に、経験年数により移植経験年数2年未満をレベルⅠ、2～5年をレベルⅡ、6年以上をレベルⅢに分け「血液疾患看護特殊性・看護業務」「バイタルサイン測定と検査データー」「化学療法」「輸血・薬剤」「感染管理」「幹細胞採取」「幹細胞移植」「GVHD」「移植後の臓器障害」「放射線治療」「倫理」の11項目からなるチェックリストを用いて“できる”“できない”の二択式自己評価を実施した。その後、全レベルでの自己評価平均点より低い項目について同じ内容の勉強会を2回実施

旭川赤十字病院7階きた

A STUDY OF EDUCATIONAL PROGRAM USING CHECK-LIST OF NURSING HEMATOLOGICAL

STEM CELL TRANSPLANTATION-PATIENTS IN THE DEPARTMENT OF HEMATOLOGY-ONCOLOGY, A-HOSPITAL

Kanako SIRATORI, Hitomi DOI, Mami KAMADA, Wakako OIKAWA, Masae ABE

した。その後同じチェックリストを用いて、
2回目の自己評価を実施した。

2. 独自で作成した移植テストを前年度の結果
と比較検討した。

3. チェックリスト、勉強会に関する自記式・
選択式アンケートを実施した。

調査期間：

自己評価1回目：

平成 25 年 6 月 1 日～6 月 8 日

自己評価2回目：

平成 25 年 8 月 20 日～8 月 27 日

知識度調査：

平成 25 年 8 月 26 日～8 月 29 日

看護師教育実施後アンケート：

平成 25 年 9 月 1 日～9 月 8 日

Ⅲ 倫理的配慮

プライバシーの保護厳守について書面と口頭
で説明し研究参加の同意を得た。

1. チェックリストの結果（図1）

全スタッフのチェックリスト1回目の自己評
価では74.6%の項目に対し「できる」と回答し
た。「幹細胞採取」67%、「幹細胞移植」67%、
「GVHD」55%、「移植後臓器障害」55%とこ

の4項目は自己評価が低かった。

この4項目についてスタッフ全員が参加でき
るよう同じ内容の勉強会を2回行った。勉強会
は移植看護がイメージしやすいよう実際の移植
患者事例と当てはめながら、知識と看護が結び
つく内容にした。勉強会後のチェックリスト2
回目の自己評価では、出来ると回答した項目は
90.5%であった。「幹細胞採取」92.3%、「幹細
胞移植」88%、「GVHD」83%、「移植後臓器障
害」77%、と4項目全てで自己評価が上昇した。

2. 移植看護に関する知識テスト結果（図2）

平均正答率は73%で、前年度の66%より上
昇した

3. アンケート結果（図3）

アンケート回収率100%、有効回答率95%で
あった。チェックリストに関するアンケートで
は、「チェックリストを行うことで自己知識の
評価に役立った」と答えた人は96%、「チェッ
クリストの評価基準は分かりやすかった」と答
えた人は91%であった。また「チェックリスト
を行なったことで学習課題が明確になった」と
答えた人は95%、「チェックリストのレベル
アップを目指したいか」の問いに「はい」と答
えた人は90%であった。

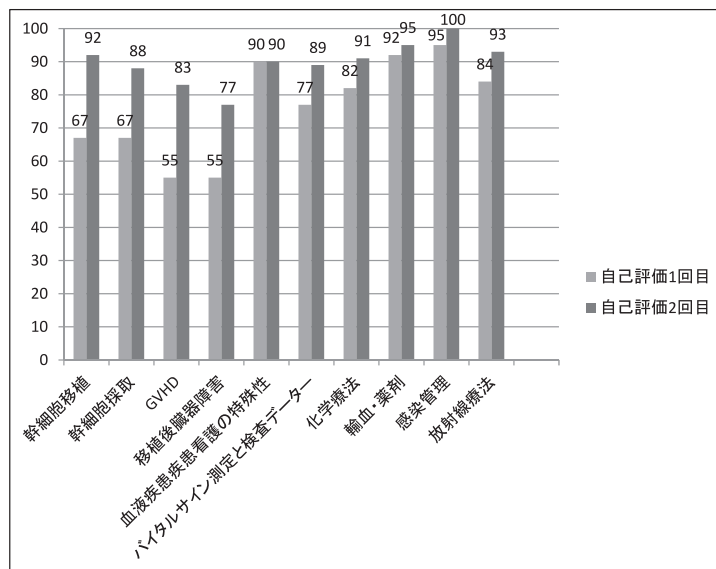


図1 チェックリスト自己評価結果

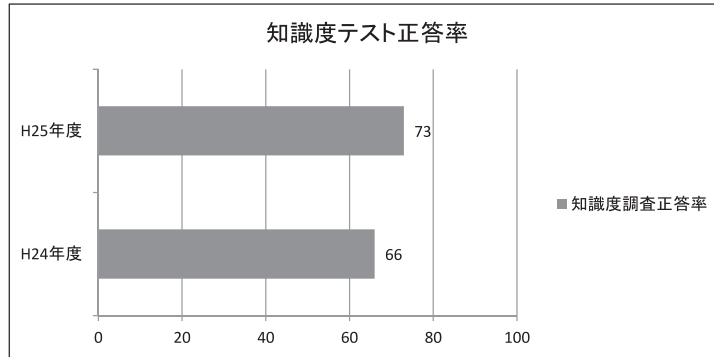


図2 移植看護に関する知識度テスト正答率

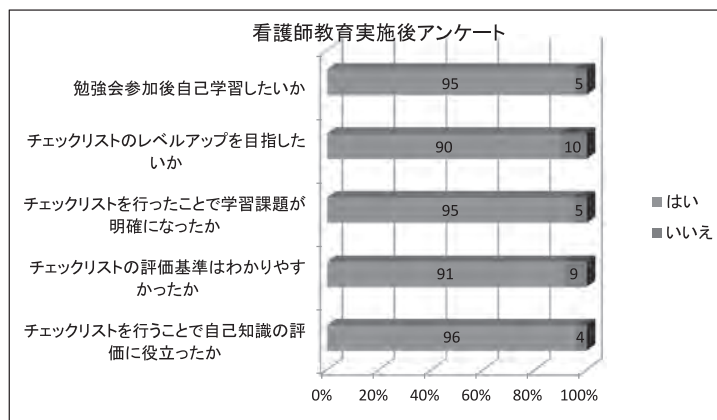


図3 看護師教育実施後アンケート結果

勉強会に関するアンケートでは「勉強会参加後自己学習したい」と答えた人は95%、「チェックリストを行う事で自己知識の振り返りになった」「患者の状態と看護が繋がった」「アセスメント能力が高まったと感じる」「学習ポイントが絞られていて、自己学習しやすくなった」との意見も見られていた。

V 考察

「造血細胞移植看護には、感染管理・化学療法看護などの専門性に加えて、個々のケースの適した患者教育や治療経過に特有な問題に悩む患者や家族への精神的支援など多様で高度な臨床実践が求められる。しかし、殆どの造血細胞移植施設では、看護師の配置転換より熟練した看護師の不足や、施設内及び地域での学習機会

が困難な状況がある」と移植学会でも述べている。本研究の結果から、「幹細胞採取」「幹細胞移植」「GVHD」「移植後臓器障害」の項目において自己評価が低いことが明らかになった。移植治療自体が日々変化しており、使用される薬剤や治療方法の情報をタイムリーに学び、看護実践につながるような専門知識の獲得が困難な現状であることがわかった。

これらの知識不足の項目に対してポイントを絞った勉強会をスタッフ全員に行ったことで、看護師全員に移植看護を学ぶことの重要性を意識付けることができたと考えられる。またアンケートで「学習ポイントが絞られていて、自己学習しやすくなった」「チェックリストを行う事で自己知識の振り返りになった」「勉強会が事例を用いた具体的なものだった為、翌日から看護

にいかす事ができた」などの意見からチェックリストを活用した勉強会の実施は、移植に携わる看護師としての自己の課題を明確にし、自己学習の動機付けにつながったと考える。

移植治療において看護師は病気発症から治療・移植・退院後の生活と長期的に患者家族を身体的、精神的に支えて行く看護実践能力が求められており、専門性の高いチーム医療の中で、職種間の連携をとるための調整役として重要な役割を担っている。本研究ではレベル別にチェックリストを行ったことで自己の課題は見出せたが、自己の役割を認識したという意見は聞かれなかった。項目ごとに評価基準を設定したが最終的な到達目標を明確にしていず、自チームの中での自己の役割意識を高めることが出来なかった。今後の課題は、レベル別に到達目標を明確にし、自己の役割を意識づけていけるようチェックリストの見直しを行い、移植看護の質の維持向上に努めていく必要がある事が課題である。

VI 結 語

1. 移植看護経験年数によるレベル別のチェックリストを実施したことで、不足している知識が明確になった。
2. チェックリスト、ポイントを絞った勉強会は自己の課題を明確にし、学習の動機付けにつながった。
3. チェックリストを用いてチーム医療の中における自己の役割意識を高めるためには、到達目標を明確にする必要がある。
4. 移植看護の質の向上の為には、スタッフの学習意欲が継続できるような教育体制の充実が必要である。

なお、本研究は平成 26 年 3 月 8 日、第 37 回日本造血細胞移植学会総会にて発表した。

文 献

- 1) 造血細胞移植を含む血液造血器腫瘍疾患看護にかかわるクリニカルラダー第 2 版：日本造血細胞移植学会看護部会、2010.